

## 組織目標評価報告書（令和5年度）

参考資料あり

10

部局名:

大学院保健学研究科・医学部保健学科

学域名:

保健学域

部局長名:

廣畑 聡

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>課題: 学部入試倍率 ・新たに総合型選抜を導入する。新入生アンケートを実施し、高校訪問やホームページなどで情報を共有して、入試倍率2.0倍を上回る志願者獲得に取り組む。</p> <p>課題: 大学院の充足 ・大学院説明会を実施して在校生の進学への意欲を高めて、定員充足100%を実現する。</p> <p>課題: 学位プログラムの実施(共通科目の実践) ・学位プログラムにおいて新たな共通科目「リーダーシップとSDGs」を対象学生が全員受講して広い視野と深い専門能力を涵養するとともに修了時アンケートをおこなう。</p> <p>課題: 学生の海外派遣 ・新たな派遣プログラムにより、50名以上の学生海外派遣を実現し、受入学生を増やすために国際WGを中心に部局一丸となって取り組む。</p>	(2-1)  (4-1)  (5-1)  (7-1)	<p>●学部入試においては、今年度より、新たに総合型選抜を導入した。新制度導入にあたり、2年前予告に加え、導入の目的・求める学生像について丁寧な説明など、ステークホルダーに対して情報共有を行った結果、保健学科として総合型選抜志願者は232名の志願者(倍率5.4倍)増となった。前期試験では倍率1.9倍であった。</p> <p>●大学院定員を充足するために博士後期課程で二次募集を実施したところ、最終的に130%超の博士後期課程入学者となった。収容定員130%内で定員管理をおこなうことが課題として新たに生じた。</p> <p>●学位プログラムにおける共通科目「リーダーシップとSDGs」は他部局に先がけて必修化されている。教育効果を長期的にみるために卒業生アンケートの実施などが必要と考えられた。</p> <p>●5年度は50名以上の学生海外派遣を実現でき、新たな交流協定校も増やすことができた。さらに、次年度以降海外へ学生を1か月以上派遣できるJASSO海外派遣事業奨学金を獲得することができた。</p>
<b>②研究領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>課題: 科研費獲得率 ・若手研究に申請できる教員が増えたことから採択数増を目指し、研究開発推進委員会などで添削などの対応をおこなう。現状は50%前後の継続+新規採択率であり、採択率向上を目指す。</p> <p>課題: Q1ジャーナル掲載数 ・Q1ジャーナル投稿数を増やす部局独自の取組をさらに充実させる。具体的には英文校正支援や投稿料支援をおこなう。</p> <p>課題: 共同研究の推進 ・人文系などとの共同研究を推進するために、保健学研究科の教員の研究紹介や共同研究を希望する領域へのアプローチを他部局と連携して、新たな企画を提案して実施する。</p>		<p>●部局での独自の科研費申請書添削などの対応をおこなった。科研費の継続+新規採択率は71%、新規採択&amp;継続件数は34件へと増加した。</p> <p>●若手研究者を対象とした、英文校正支援や投稿料支援を企画して実行した。さらに、国内で活躍している若手研究者を招聘して、部局独自の研究者キャリアガイダンス講演会を企画・実施した。</p> <p>●人文系など異分野融合型の共同研究を推進するための新たな企画として、URAと協働して、京都大学・広島大学などと連携、全国キャラバン3QUESTIONS[中国地区]に保健学研究科から8演題を応募・発表し、全国の研究者に自分たちの研究を発信する成果をあげた。</p>
<b>&lt;研究科の系としての目標・取組&gt;</b> ※研究科の系として独自の目標・取組がある場合は、こちらにご記入ください。		
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>課題: 地域との共創 ・地域課題へ取り組む保健学科を実現するために、デジタル田園健康特区に採択されている吉備中央町に保健学科学生および教員を現地へ派遣して参加させる。</p> <p>課題: 多彩なステークホルダーとの連携 ・岡山大学ホームカミングデーに積極的参加し、保健学科3専攻の各同窓会と連携して、OB/OGと教員や在学生たちの交流イベントを実施して、保健学科と同窓会との連携を強化する。</p>		<p>●デジタル田園健康特区に採択されている吉備中央町へ保健学科学生および教員を派遣した。地域の高齢者と、(将来医療従事者となる)保健学科学生が、地域における保健課題解決にDXを駆使して協働する我々の取組は、自治体はもちろんのこと内閣府でも高く評価されており、地元メディアによる特別番組の中で学長より優れた取組として紹介された。次年度以降、N-スクエアを活用して、さらに展開して行く足がかりを構築した。</p> <p>●岡山大学ホームカミングデーにおいて、初めて保健学科各専攻の同窓会と連携して、OB/OGと教員や在学生たちの交流イベントを実施した。この活動により、保健学科と同窓会との連携を強化することができた。</p>
<b>④管理運営領域</b>	関連する 中期計画の番号	<b>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b>
<p>課題: 女性教員割合 ・女性教員の採用を積極的に進め、女性教員割合を40%以上の高い状態で維持する。部局の運営会議(陪席含む)における女性教員割合を1/3以上として、女性管理職の比率を高める。</p> <p>課題: 若手教員割合 ・40歳未満の若手教員20%以上を維持することを目指すとともに、優秀な教員は内部昇任も含めて活躍の場を与えるように研究科として取り組む。</p> <p>課題: テニュアトラック採用者割合 ・新規採用教員についてはテニュアトラック制度を整備し、採用率を100%維持することを目指すとともに、テニュア教員を支援する体制を構築する。</p>	(11-1)	<p>●女性教員割合を40%以上を維持しており、中期目標を上回る女性教員率を達成している。部局運営会議(陪席含む)における女性教員割合を1/3以上とし、女性管理職の比率を高めた。</p> <p>●40歳未満の若手教員20%以上を維持し、優秀な教員には内部昇任も含めて活躍の場を与えた。</p> <p>●新規採用教員については100%のテニュアトラック採用率とした。また、メンター教員制度を整備して、採用教員を支援する体制を組織として構築した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。